

イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/1/15作成 (株)新出光

【概況】 <原油引き続き堅調に推移するも利益確定の売り>

●8日、サウジアラビアが5日、2~3月に自主的に日量100万バレルの追加減産に乗り出す姿勢を表明して以降、需給の不均衡をめぐる警戒感が後退しています。WTI原油で50ドルの心理的な節目を突破し、昨年2月下旬以来の10カ月ぶり高値水準を保っていることも追随買いにつながっているようです。米エネルギー情報局(EIA)が6日に発表した週間原油在庫統計で大幅な原油在庫の取り崩しが示されたことも、引き続き支援材料となっています。

●9日、米ジョンズ・ホプキンス大学の集計によると、新型コロナの世界感染者数がこの週末に累計9000万人を突破。米国では8日に報告された新規感染者数が初めて30万人超を記録したほか、より感染力の強い変異種が猛威を振るう英国を中心とした欧州の広い地域、さらに中国でも規制強化が相次ぎ、エネルギー需要の鈍化懸念が強まっており、売り圧力に押される形となりました。

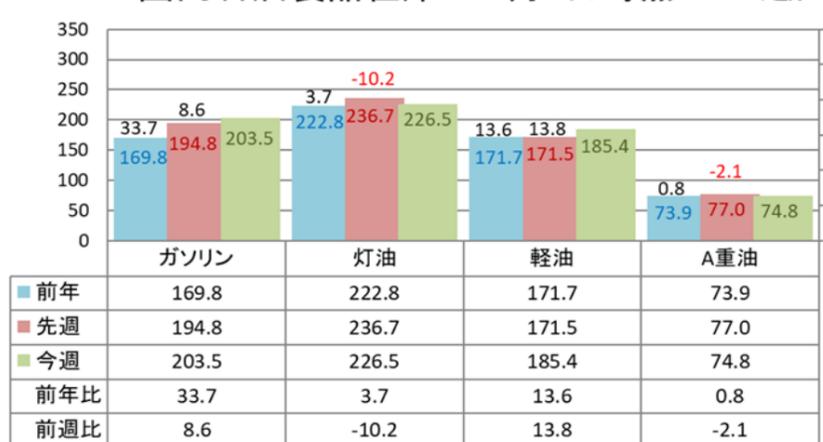
●12日、12~13日にかけて発表される民間と政府の米在庫週報を控えて、原油在庫の取り崩しが予想されていることも、相場の支援材料となっています。またバイデン次期政権が公約する大型財政出動への期待を背景に、エネルギー需要の先行きに楽観的な見方が広がっていることも支援材料となりました。

●13日、外国為替市場では対ユーロでドル高が進行し、ドル建てで取引される原油などの商品の割高感につながり、原油が売られました。また、感染力の高い新型コロナウイルスの変異種の世界での拡大などでエネルギー需要の先行き不安は根強く、原油の上値は重かったようです。加えて、これまで6日間続伸してきた反動から利益確定の売りも出やすかったことも挙げられます。

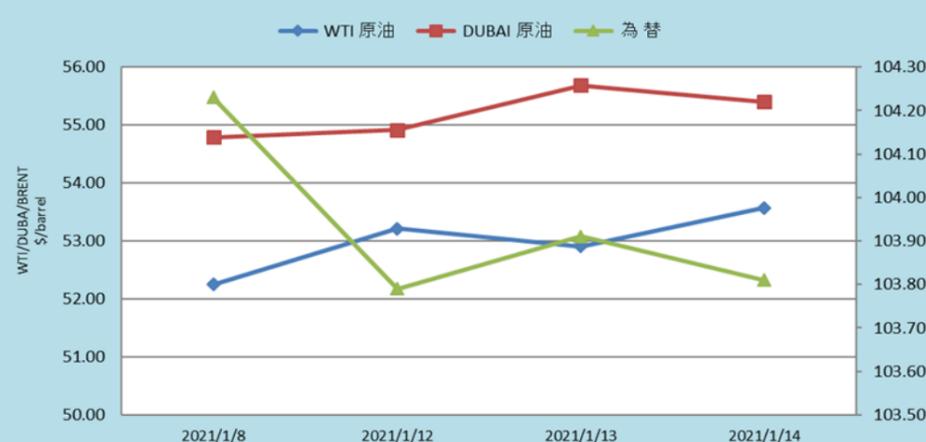
●14日、米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計では、原油在庫が320万バレル減と、市場予想の230万バレル減を上回る取り崩し幅となりました。そのため需給緩和懸念が後退し、一時はプラス圏に浮上する場面もありました。中国税関総署が14日発表した2020年の原油輸入は前年比7.3%増の5億4239万トンとなり、過去最高を記録しました。新型コロナウイルスの流行にもかかわらず、旺盛な需要が示されたため、市場では需給緩和懸念が後退しています。

1月15日 17:00現在 WTI原油 53.12ドル 為替 1ドル 103.69円

国内石油製品在庫 1月9日時点



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



次回元売変動予測

1/21~ 元売変動予測

ガソリン	➡	+1.5~+2.0
灯油	➡	+1.5~+2.0
軽油	➡	+1.5~+2.0
A重油	➡	+1.5~+2.0
LSA	➡	+1.5~+2.0

※現段階の原油コストによる予想です。

【製品卸価格】 <先高予測も市況はほぼ横ばい>

《今週》今週の元売り仕切り改定はENEOS「+1.5円」、出光シェル「+2.0円」の値上げ改定となり元売り二社で改定幅が異なりました。コスモ石油の仕切り改定のズレを利用した販売が広く安値として残り、特にガソリンは上昇幅を抑えた形でした。二日に分けて市況は上昇し、おおよそ改定幅程度市況が上がっています。

《1月16日以降》来週の元売り改定は現状の原油コストで「+1.5~+2.0円」の値上げ予測です。年始から3週連続で値上げになる予測となっており、月間リンクの仕入れ玉の販売はまだ息をひそめ、週決め玉を早めに消化しようとする向きが多く見受けられます。ガソリンや軽油は外出自粛の影響で全国的に荷余り感があり、先高ではありますが市況はほぼ横ばいです。月間リンクの仕入れ玉は来週の改定後から売りを強めることが予測されますので、元売りの仕切りが上がっても、市況があまり上がらないことも十分考えられますので、週決め玉は売りづらい状況になると考えられます。今週末から週明けにかけて仮需はありますが、オーダー自体があまり旺盛では無いようです。

【トピック】 <出光興産北海道製油所火災>

現在停止しているトッパーはENEOSの大分製油所、出光興産の北海道製油所の二つです。ENEOS大分製油所は昨年5月からですが、出光北海道製油所は1月7日深夜に、トッパーの重油留分ポンプ機器から火災が発生しました。これにより同社社員一名が軽い火傷を負う人的被害が起きました。現在トッパーおよび減圧蒸留装置の稼働を停止しており、トッパー再稼働には3週間程度かかるとされています。ただ海上・陸上出荷については通常通り行われているようです。これにより出光興産は市中買いを一部行っているとの話もありますが、灯油は降雪の多かった先週とは異なり、今週は少し気温が上がったことにより出荷が緩み在庫逼迫までは陥っていないようです。関係者によると来週には稼働を再開できるのではとの話も出ていますので、今後影響が出ることはあまりないと思われます。国内の製品在庫を見ますと、ガソリン・軽油は先週比で在庫が増加、灯油・重油は在庫が減少しております。ガソリン・軽油は外出自粛の影響で出荷が思わしくないことが窺えます。また灯油・重油は寒さゆえに比較的需要はありますが、先週ほどの寒さは解消しており、1月後半からの出荷を危惧するディーラーもいるようです。